

廃棄物・プラ問題の経済学的解決



熊丸 博隆

Hirotaka Kumamaru

助教 博士（経済学）

教育文化学部 地域文化学科 地域社会・心理実践講座

研究キーワード

サーキュラーエコノミー、プラスチック廃棄物、リサイクル、企業におけるプラスチック利用

研究概要

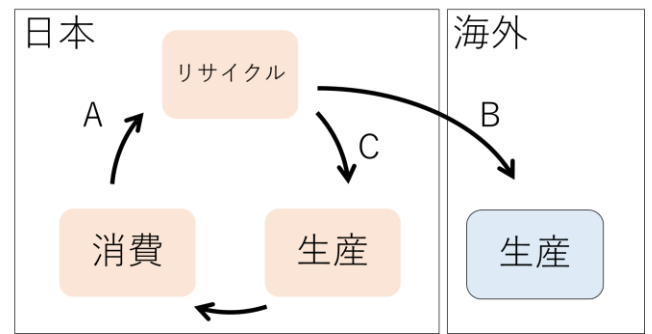
主に以下のような研究を行ってきました。

- A) ごみ袋有料化が廃棄物発生量に与える影響
- B) 海洋プラ問題に伴う中国の輸入規制が日中の廃プラスチック貿易に与える影響
- C) 日本の容器包装リサイクル法がプラスチック製品の原材料使用率に与える影響

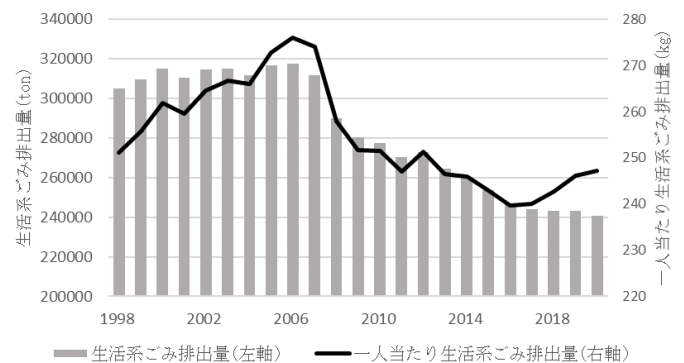
Aの研究は、ごみ袋有料化が消費者の廃棄物発生量に与えた影響を検討したものであり、ごみ袋有料化だけでなくごみ分別数の増加により廃棄物発生量が減少した結果が得られました。

Bの研究では、2017年の中国の輸入規制が廃プラの国際市場に与えた影響の分析を行い、両国にマイナスの余剰の発生が確認されました。

Cの研究では、容リ法が企業の再生プラ利用に与える影響の分析を行い、法律施行後の再生プラ利用率が増加したことが確認されました。



左のA,B,Cにそれぞれ対応。



秋田県の廃棄物排出量推移

予想される応用例

・日本に加えて、秋田県における廃棄物やプラスチックごみの削減および、企業により効率的なプラスチック利用の策定

産業界へのアピールポイント

秋田県の1人当たり廃棄物排出量は近年増加傾向であり、この解決は秋田県のごみ問題だけでなく地球温暖化にも貢献可能である